

ぎふ感染症かわら版

令和元年 8月16日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



RSウイルス感染症に注意しましょう！

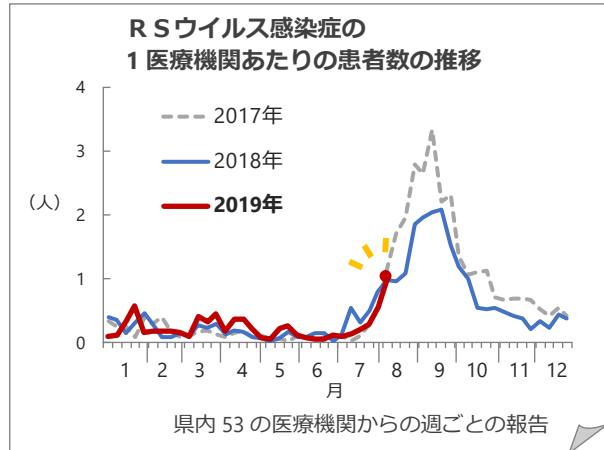
RSウイルス感染症は、赤ちゃんに注意が必要な感染症です。

以前は秋～冬に流行していましたが、近年、全国的に流行の時期が早まっており、9月ごろに流行がみられるようになっていきます。今年も県内で、8月に入り患者の増加が始まっていますので、注意が必要です。

どんな病気？

RSウイルスによる呼吸器の感染症です。2歳までにほとんどの人が一度は感染しますが、終生免疫（生涯にわたる免疫）はできないため、その後も何度も感染することがあります。

症状は、発熱や鼻水などの軽いかぜ症状から重い肺炎まで様々です。はじめて感染した場合は重くなりやすく、特に**赤ちゃんでは細気管支炎や肺炎などの重い症状をおこしやすくなります。**



RSウイルスの感染に注意が必要な人

- ◆ 生後6か月までの乳児
- ◆ 心臓や肺、または免疫不全の基礎疾患をもつ小児
- ◆ 慢性呼吸器疾患（ぜんそくなど）の基礎疾患をもつ高齢者

どう感染するの？ 予防方法は？

咳やくしゃみなどによる**飛沫感染**や、手指などを介した**接触感染**により感染します。ワクチンや特効薬はありませんので、一般的な予防が大切です。家庭内で感染が広がりやすいため、赤ちゃんや持病をもつ高齢者のいる家庭では、次のことに心がけ、感染予防に努めましょう。

年長のお子さんや大人の場合、RSウイルスに感染しても、軽い症状ですむことが多いため、気づかずに赤ちゃんにうつしてしまうことがあります。



- 石けんを使った手洗いと、アルコールによる**手指の消毒**をおこないましょう
- かぜのような症状があるときは、できるだけ**赤ちゃんや高齢者と身近に接することを控えましょう**
- 咳が出るときは**マスクを着用し、咳エチケット**を心がけましょう



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

